

- 2) ニホンザルの遺伝的変異性 II. 群間変異
野沢 謙・庄武孝義
第45回日本遺伝学会 (1973)
- 3) ニホンザルにおいて群特異的に見られる Adenylate kinase (AK) および Esterase A₁ (EsA₁) 座位の多型現象について
庄武孝義・大介よし子
北島正子・野沢 謙
第27回日本人類学会日本
民族学会連合大会 (1973)
- 4) PGM₂ 2-2 遺伝子型の固定から推察されるヤクザルの創始者集団の小ささ
庄武孝義・大介よし子・野沢 謙
第18回プリマーテス研究会 (1974)
- 5) ニホンザルの群間遺伝的変異
野沢謙・庄武孝義・大介よし子
第18回プリマーテス研究会 (1974)
- 6) Entwicklung der Hominiden
Akiyoshi Ehara
ドイツ地質学会例会 (1974)
- 7) クマオンヒマラヤ西部のアカゲザルの生態
和田 一 雄
第18回プリマーテス研究会 (1974)

生活史研究部門

杉山幸丸・小山直樹
田中二郎・大沢秀行

研究概要

- 1) ニホンザルの個体群生態学的研究
杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行
- 2) インド亜大陸を中心とする狭鼻猿の動物地理学的研究
杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行
- 1), 2)については年報第3巻8頁参照。
- 3) エチオピア高原におけるゲラダヒヒの社会生態学的研究¹⁾

大 沢 秀 行

昭和48年5月より49年3月まで、エチオピアにおいて表記の調査を行なった(海外との交流の項参照)。4名の共同調査であるが、大沢秀行の分担はとくに、ゲラダヒヒの population ecology を中心にしたものである。social unit の個体数変動およびその要因解析, grouping の dynamics の解析などから、群れの構造の究明へアプロ

¹⁾ 河合雅雄・森 梅代 (以上社会研究部門), 岩本俊孝 (九大・理) との共同研究。

ーチを進め、さらにはこの社会構造と個体数制限機構との関係を追求してゆく。個体数変動・社会変動の研究には長期の調査が必要であり、今後の調査を計画中である。

4) 狩猟採集民、漁撈民の生態人類学的研究

田 中 二 郎

1. 現存狩猟採集民を対象に、生態学的研究を行なっている (年報 vol. 3, p. 8 参照)。日本南海域における漁撈民、アフリカ、コンゴ森林のピグミー等をブッシュマンとの対比において研究しつつある。
2. 野生チンパンジーの社会・生態、アフリカの遊牧民の生態を研究し、狩猟・採集・漁撈民との比較的な視点から、ホミニゼーションの過程における、生活様式、社会の復元を試みようとする。

総 説

- 1) Sugiyama, Y. (1973): The social structure of wild chimpanzees—A review of field studies. In *Comparative Ecology and Behaviour of Primates*. (Michael, R. P. & J. H. Crook ed.) pp. 375-410. Academic Press, London.
- 2) 杉山幸丸(1973): 動物の社会。新しい生物学史—現代生物学の展開と背景 (沼田真編) pp. 171-183. 地人書館, 東京。
- 3) 小山直樹(1974): 嵐山群の分裂—その仕組みと血縁関係。アニマ 2: 31-36。
- 4) 田中二郎(1973): 採集狩猟民における集団の生態。からだの科学 52: 111-115。

論 文

- 1) Sugiyama, Y. (1973): Social organization of wild chimpanzees. In *Behavioral Regulators of Behavior in Primates*. (Carpenter, C. R. ed.) pp. 68-80. Bucknell Univ. Press, Lewisburg.
- 2) 杉山幸丸・大沢秀行(1974): 鈴鹿山系霊仙山生息のニホンザルの個体群動態。I 概観。日生態会誌24: 50-59。
- 3) Koyama, N. (1973): Dominance, grooming, and clasped-sleeping relationships among bonnet monkeys in India. *Primates* 14: 225-244.
- 4) 田中二郎(1974): ブッシュマンの生態。生態学講座 25「人類の生態」pp. 61-91. 共立出版, 東京。

報告その他

- 1) 杉山幸丸・大沢秀行(1974): 霊仙山生息ニホンザルの個体群動態。オスの生活史—ニホンザル地域個体群の研究 I (和田一雄・東滋・杉山幸丸編) pp. 55-

62。霊長類研究所。

- 2) 小山直樹(1974)：ニホンザルオスの研究史。オスの生活史—ニホンザル地域個体群の研究 I (和田一雄・東滋・杉山幸丸編) pp. 3-11。霊長類研究所。

学 会 発 表

- 1) ハスマンラングールの環境適応と生活様式
杉 山 幸 丸
第27回日本人類学会日本
民族学会連合大会 (1973)
- 2) ハスマンラングールの生態
杉 山 幸 丸
第18回プリマーテス研究会特別講演 (1974)
- 3) インド中西部におけるサル類の分布の現況と human impact
小 山 直 樹
第27回日本人類学会日本
民族学会連合大会 (1973)
- 4) 嵐山群の個体数変動について
乗越船司・真野哲三・小山直樹
第18回プリマーテス研究会 (1974)
- 5) ブッシュマンの生活と社会
田 中 二 郎
第10回日本アフリカ学会大会 (1973)

生 理 研 究 部 門

大沢 済・大島 清
目片文夫・林 基治

研 究 概 要

- 1) 温度適応の研究
大沢 済・大島 清
目片文夫・原文江¹⁾
- 2) 霊長類の生殖生理に関する基礎的研究
大島 清・林 基治
- 3) 分娩時子宮収縮伝播に関する電気生理学的研究
大 島 清
1), 2), 3)については年報第3巻9頁参照。
- 4) UPS (Uterine Progesterone System) の避妊機序に関する研究
大 島 清

T字型の垂直幹のポリマーに天然のプロゲステロンを内蔵した、所謂ミニビルとT字型 IUD を併用した新しい子宮内避妊器具の避妊効果及びその機序を解明する。ホルモン動態、子宮内膜の局所的変化の電子顕微鏡的観

察、内膜組織培養などの手法を用いて、このプロジェクトは現在、緒についたばかりである。

- 5) ニホンザル性周期とホルモン環境

林 基治・大島 清

メスニホンザルの血中 LH 測定に、2 抗体法によるラジオイムノアッセイ (RIA) 系を確立した。この系を用いメスニホンザルの年内 LH 変動と性周期との関係、また、膣スミア、腹腔鏡による卵巣形態変化等との関連を明らかにする。

- 6) ゴナドトロピン分泌の動態

林 基治・大島 清

卵巣摘除サル、正常性周期を有するサル等に、releasing factor, prostaglandin 等を急性投与し、それ等のゴナドトロピン分泌に及ぼす影響を調べ、その作用機序を明らかにする。

- 7) 霊長類の卵巣、卵管、子宮に対するホルモンの影響に関する電気生理学的研究

竹中晃子²⁾・大島 清・林 基治

生殖器官の細胞膜電位および活動電位におよぼすホルモン (エストロゲン、プロゲステロン、オキシトシン、プロスタグランディン) の影響を電気生理学的に究明し、その作用機序を追及するために、卵巣、卵管、子宮平滑筋の細胞内電位をガラス微小電極法により測定し、細胞内電位のホルモンレベルによる差、自律神経系との関係さらに膜電位と収縮との関連性について検討している。

総 説

- 1) 大島清(1974)：霊長類の生殖生理 I, II。科学44(1)：11-19, 44(2)：95-102。

論 文

- 1) 大島清・高木貞敬(1973)：湾内海水シロサケの嗅球誘起脳波による母川回帰機序に関する研究。日本医師会雑誌69：46-59。

学 会 発 表

- 1) プロスタグランディンのウサギ黄体退縮作用に関する光顕および電顕的研究
大島 清・中井康光
松本公一郎・吉田浩介
日本不妊学会第18回大会 (1973)
- 2) ニホンザルに於けるプロラクチン分泌の動態について

山路 徹・島本和明

大島 清・林 基治

日本内分泌学会第47回大会 (1974)

¹⁾ 教務職員

²⁾ 研修員